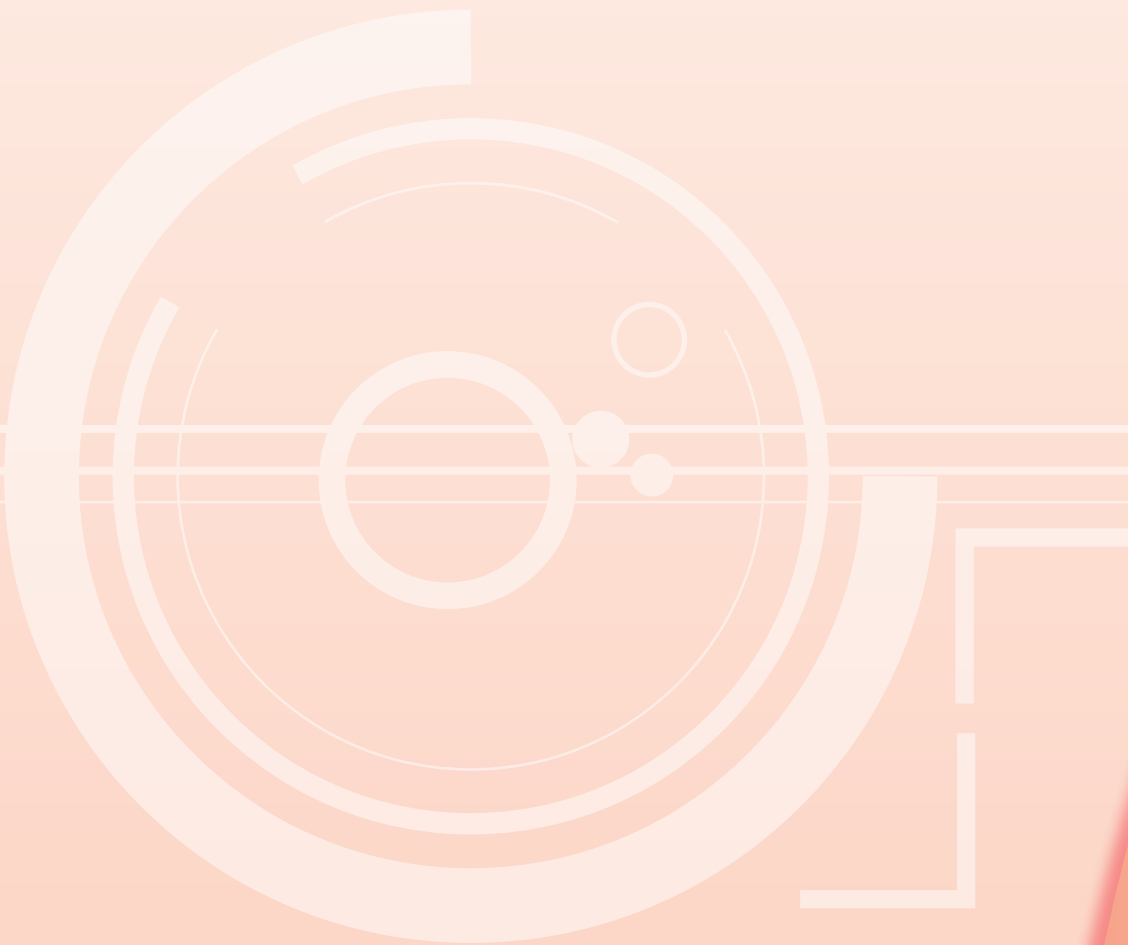


後期基本計画（地域別計画）



後期基本計画（地域別計画）について

（１）基本計画（地域別計画）とは

基本計画は、前期・後期の各５年間についての具体的な政策・施策を体系的に示すものであり、「地域別計画」と「目標別計画」で構成します。

「地域別計画」は、各小学校区（地域の活動の状況に応じて中学校区）を「地域」の基本単位とし、各地域の現状と方向性を明らかにするとともに、下記の「目標別計画」を各地域別に編集し、取りまとめたものです。

「目標別計画」は、基本構想における将来都市像を実現するための６つのまちづくりの目標ごとに、めざす暮らしの姿や役割分担、主な取り組み、指標などを示したものです。

（２）「地域別計画」の内容、「目標別計画」との関係について

「地域別計画」の内容には、防犯や防災、地域福祉など、人々の日常生活に関連するものと、基盤整備に関するものがあります。地域での活動の状況や課題を踏まえ、地域での取り組みを「まちづくりの方向性」にまとめ、また、方向性に関連する施策を「市の主な取り組み」として掲載しています。しかし、それ以外の施策がその学校区に全く関連しないというものではありません。したがって、「地域別計画」に記載されていない施策についても、全市的に施策を推進していくものについては、「目標別計画」に基づいて全市的に取り組みを推進していきます。

なお、基盤整備に関するものについては、事業の方向性や手法などが地域の住民の日常生活、地域のまちづくりに大きく影響すると考えられることから、学校区のまちづくりの方向性に含めて、地域とともに進めていくという考え方にに基づき盛り込んでいます。

（３）後期基本計画（地域別計画）の策定過程について

八尾市第５次総合計画「やお総合計画2020」の基本構想では、「地域のまちづくり」は、地域の自発性や多様性を尊重しながら充実していくこととしています。

前期基本計画（地域別計画）の策定に際しては、「地域別計画」意見交換会を開催し、地域毎に行政計画として取りまとめましたが、その後、平成24年（2012年）から25年（2013年）にかけて、各地域で校区まちづくり協議会が設立され、地域が主体となって作成する地域ごとのまちづくり計画である「わがまち推進計画」が、それぞれ平成27年度（2015年度）までを計画期間として策定されました。

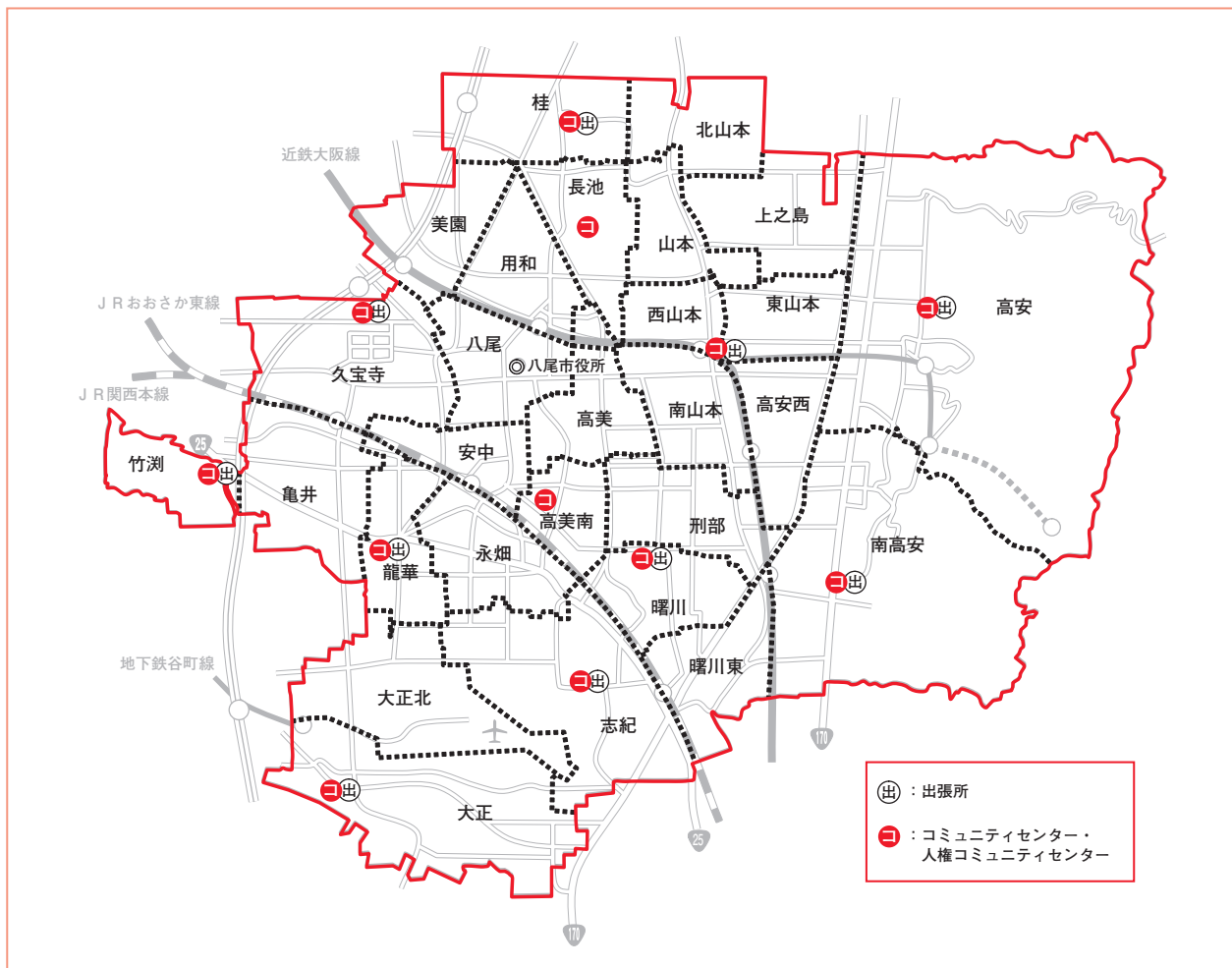
そのため、平成27年度（2015年度）の後期基本計画（地域別計画）の策定に際しては、「わがまち推進計画（第２期）」と同時期の策定となることから、平成26年度（2014年度）に開催した「八尾市総合計画基本計画評価委員会」における提案等の議論を踏まえ、地域と行政が力を合わせ、ともに「地域のまちづくり」を進めていくために、各地域の「わがまち推進計画」の策定の動きと歩調を合わせ、同計画の内容と整合のとれた「まちづくりの方向性」を定めた後期基本計画（地域別計画）を策定することとしました。

(4)「地域別計画」の「地域」単位について

八尾市では、第1次総合計画から第4次総合計画まで、地域コミュニティについては、学校区の再編を経ながら、その最も基礎的な単位を小学校区としてきました。市民どうしが身近な地域で交流し、地域でさまざまな活動をする単位として概ね小学校区を設定しています。地域コミュニティは、本来、地域住民の自発的な意思に基づいて創造されるものであり、中学校区をその活動の単位とする地域や、地域活動区域と学校区が一致しない場合もあります。また、行政の分野によっては、中学校区を基軸に展開している分野もあります。コミュニティセンターは、原則として中学校区単位としています。

後期基本計画（地域別計画）では、これらを踏まえ、各小学校区（地域の活動状況に応じて中学校区）を「地域」の基本単位としつつ、中学校区を一つのまとまりとする編集をしています。

八尾市の小学校区図（平成28年度（2016年度）現在）





八尾中学校区位置図

地域の概要

八尾中学校区は、市域の中央北部に位置し、^{や お}用和小学校区と^{よう わ}長池小学校区の2つの小学校区で構成されています。

用和小学校区は、南側は近鉄大阪線に、西側は府道八尾枚方線に、東側を府道八尾道明寺線に囲まれた三角形の形をしています。校区の南端にある近鉄八尾駅は市の玄関口で、周辺は百貨店や大型商業施設などもある商業集積地となっています。

また、大型集合住宅の建設が進み、校区人口は年々増えています。

長池小学校区は、南側に近鉄大阪線が通り、西側には府道八尾道明寺線が走る南北に長いエリアです。校区は府営・市営の住宅を含んだ住宅地が大半を占め、北側に一部農地を残しています。北西部の^{かやふり}萱振町周辺は、恵光寺を中心とした寺内町の歴史があります。



1. 用和小学校区

(1) 前期基本計画の総括

用和小学校区では、災害に強いまちづくりのため防災物品の整備のほか、地域で総合的な自主防災訓練を実施し、住民の防災意識が高まりました。また、子育て支援のための親子で交流できる広場の開催や交通事故防止に向けた啓発活動にも取り組んでいます。

一方、近年大型集合住宅の建設により校区人口は増えていますが、町会加入は進んでおらず、自治振興委員会等と連携し、地域のイベント等への参加を促しながら加入促進を図っていく必要があります。



防災物品の整備



防災訓練

(2) 地域力

用和小学校区では、平成24年（2012年）11月に校区まちづくり協議会が設立され、わがまち推進計画に防犯防災・地域福祉の2つの柱を位置づけ、防犯防災物品の整備充実と自主防災訓練の開催により校区住民の防災意識の向上が図られています。また、「ふれあいまつり」や「ふれあいサロン」などのイベントを通じた住民どうしの交流が促進されています。

一方、用和地区福祉委員会は、市民スポーツ祭や地域一斉清掃、一人暮らし高齢者の給食会などを開催しています。また、用和地区自治振興委員会では、定例的に用和小学校区集会所で地区委員会を開催し、市から依頼を受けたチラシ回覧やポスター掲示などの案件や地域での伝達事項の周知などのほか、地域行事や地域課題について話合われています。

これらの団体は、校区まちづくり協議会の構成団体ともなっており、校区まちづくり協議会と連携しながら、地域の発展のための取り組みが進められています。

活動紹介



ふれあいまつり



市民スポーツ祭



地域一斉清掃

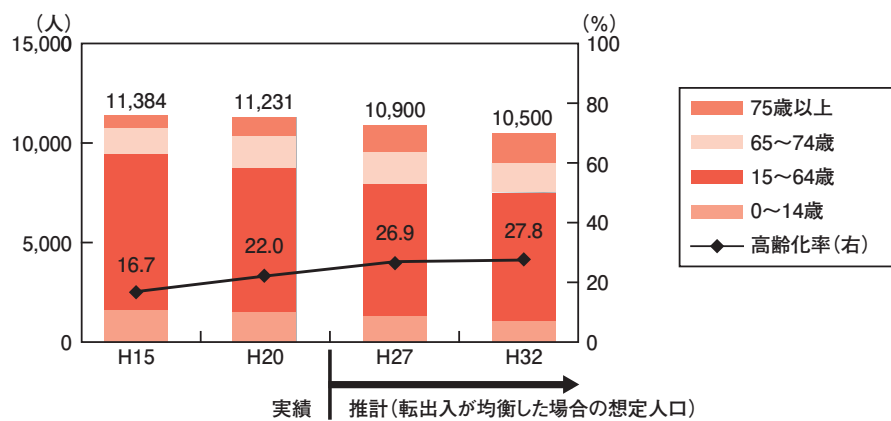
地域データ

①人口の見通し

前期基本計画の策定時は、用和小学校区の人口は減少傾向にあり、平成20年（2008年）の高齢化率は22.0%となっていました。

前期基本計画策定時に行った人口の見通しでは、平成32年（2020年）の高齢化率は27.8%、75歳以上人口は約1,560人と推計されています。

用和小学校区の人口推移と高齢化率（65歳以上人口比率）の見通し



②用和小学校区のさまざまなデータ

項目	単位	八尾市	用和小学校区
世帯数	(世帯)	121,528	5,745
人口	(人)	268,983	12,053
面積	(km ²)	41.72	0.983
人口密度	(人／km ²)	6,447	12,261
65歳以上人口	(人)	72,295	3,095
65歳以上人口比率	(%)	26.9	25.7
14歳以下人口	(人)	34,723	1,469
14歳以下人口比率	(%)	12.9	12.2

(平成27年(2015年)9月末時点)

(3) 用和小学校区のまちづくりの方向性

① 地域でのふれあい交流があり、災害に備えのあるまち

用和小学校区では、小学校区集会所を活動拠点に地域住民が主体となって、市民スポーツ祭やふれあいまつりなど住民どうしの交流の催しや一人暮らし高齢者の給食会などの地域福祉活動を行っています。しかし、近年新しい住宅の建設により人口は増加傾向ですが、そのためには自治振興委員会等とともに町会加入促進に取り組み、地域コミュニティの強化や健康づくり等地域活動への参画につなげて、地域活動の担い手を発掘・育成していく必要があります。また、校区まちづくり協議会を中心に防災物品の整備や自主防災訓練が実施されており、今後とも地域と連携した防災対策に取り組み、災害に備えのあるまちをめざします。



防災訓練

市の主な取り組み

- 災害発生時を想定した行動訓練や自主防災組織の活動支援などに取り組みます。
(施策 2：安心を高める防災力の強化)
- 地域の健康づくり活動を支援する中で、地域の健康コミュニティの構築と健康文化の醸成に取り組みます。
(施策 10：疾病^{しっぺい}予防と健康づくりの推進)
- 住民どうしの支えあいが豊かになるために、地域福祉の担い手となる人材育成や、学習会などの開催により住民参加の促進に取り組みます。
(施策 13：ともに支えあう地域福祉のしくみづくり)
- 地域のまちづくり活動を支援する体制を充実します。
(施策 54：地域のまちづくり支援・地域拠点の充実)
- 市民活動団体等が地域とつながり、協働のまちづくりの担い手となるよう支援します。
(施策 55：市民の社会貢献活動の促進)

②子どもたちが健やかに育つまち

用和小学校区では、登下校時の子ども見守り活動など子どもたちの安全確保をはじめ、民生委員・児童委員による子育て支援活動など、地域ぐるみで子どもを育む取り組みを行っています。しかし、近年児童虐待やいじめ問題など子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。今後も地域と行政等とが連携して、育児相談や食育の推進など子どもの健全な育成のための取り組みを進め、子どもたちが健やかに育つまちをめざします。



はとぼっぼ

市の主な取り組み

- 地域における防犯活動の支援や、地域、事業者、関係団体、警察、関係機関との連携・協力による防犯への取り組みを進めます。
(施策 1：安全なまちをつくる防犯の取り組み)
- 健康で文化的な生活と豊かで活力ある社会の実現のために、家庭、保育所、学校園、地域などが連携して食育を推進します。
(施策 10：疾病予防と健康づくりの推進)
(施策 23：知徳体のバランスのとれた小中学生の育成)
- 地域で子育てに関する相談や交流ができるように、子育て支援拠点の運営や、子育てサークルへの支援、地域交流事業などを行います。
(施策 19：地域での子育て支援と児童虐待防止の取り組み)
- 子どもたちの安全確保の取り組みや、地域での青少年健全育成の取り組みを進めます。
(施策 22：次代を担う青少年の健全育成)
- 通学路を中心とした生活道路について安全対策と適切な維持管理に努めます。
(施策 40：生活道路の整備と維持)

③交通マナーが守られ、安全に暮らせるまち

用和小学校区の南端には、乗客数が市内で最も多い近鉄八尾駅があります。駅周辺では放置自転車がが多く、また最近では自転車が絡む事故も多く発生しています。迷惑駐車も交通安全上の課題となっており、引き続き事故防止に向けた啓発活動を実施していく必要があります。市では適宜、放置自転車の撤去などを行っていますが、今後とも事故抑止のための交通安全教育などを実施し、地域と行政が連携して、住民が交通マナーを理解し、^{じゅんしゅ}遵守して安全に暮らせるまちをめざします。



交通安全教室

市の主な取り組み

- 警察、地域などの関係団体と連携し、交通事故防止に向けた各種啓発活動や交通安全教育などに取り組みます。
(施策5：交通事故をなくすための安全意識の高揚)
- 駅周辺において安全に通行できる空間を確保するため、放置自転車の移動保管活動を行うとともに、啓発活動に取り組みます。
(施策6：市民一人ひとりの適切な自転車利用の促進)

④賑わいのある誰もが暮らしやすいまち

用和小学校区では、百貨店や大型商業施設があり、市民の利便性が高い地域となっています。しかし一方では、これら店舗の進出により人の流れが変わり、既存の商店街がかつての賑わいを失っています。

商店街は、市民が身近に買い物ができるほか、高齢者をはじめ人と人とのふれあい交流の場であり、地域コミュニティの醸成に役立つ貴重な存在であります。

そうしたことから、商店街活性化に向けた取り組みを進め、地域貢献の面を考慮しながら地域の各種団体あるいは大学との連携も図りつつ、商店街を中心に賑わいのある誰もが暮らしやすいまちをめざします。



近鉄八尾北商店街

市の主な取り組み

- 商業団体と多様なまちづくり活動主体の連携の促進などを行います。
(施策34：地域に根ざし、貢献する商業の育成と振興)

2. 長池小学校区

(1) 前期基本計画の総括

長池小学校区では、安全安心で生き生きと暮らし続けられるまちをめざして、災害時を想定した防災訓練を実施したほか、子どもたちの安全のために登下校時の見守り活動が続けられています。

また、ふれあい交流事業や一人暮らし高齢者の給食会など福祉活動にも力を入れています。

今後、高齢化が進んでいくことから緑ヶ丘コミュニティセンターや地域包括支援センター等と連携し、住民、特に高齢者が身近で気軽に相談できる機能整備を図っていく必要があります。



ふれあい喫茶



一人暮らし高齢者給食会

(2) 地域力

長池小学校区では、平成25年（2013年）4月に校区まちづくり協議会が設立され、わがまち推進計画に基づき、総合的な防災訓練や子育て支援のための「子うさぎ教室」の開催、ふれあい交流イベントである「フェスタ長池」や「いきいきサロン」が開催されています。

一方、長池地区福祉委員会は45年以上の活動の歴史があり、市民スポーツ祭やふれあい喫茶などでは毎回多くの参加者で賑わっています。また、長池地区自治振興委員会では、定期的に緑ヶ丘コミュニティセンターで地区委員会を開催し、市から依頼を受けたチラシ回覧やポスター掲示などの案件や地域での伝達事項の周知などのほか、地域行事や地域課題について話し合われています。

これらの団体は、校区まちづくり協議会の構成団体ともなっており、校区まちづくり協議会と連携しながら地域の発展のための取り組みが進められています。

活動紹介



防災訓練



フェスタ長池



いきいきサロン

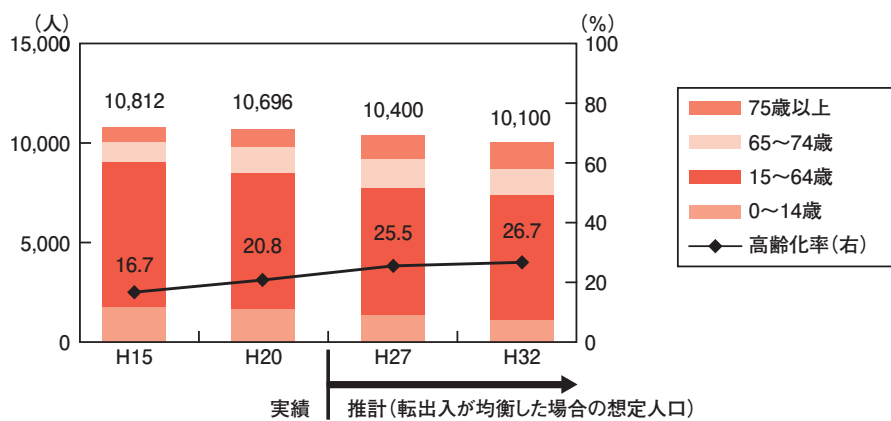
地域データ

①人口の見通し

前期基本計画の策定時は、長池小学校区の人口は減少傾向にあり、平成20年（2008年）の高齢化率は20.8%となっていました。

前期基本計画策定時に行った人口の見通しでは、平成32年（2020年）の高齢化率は26.7%、75歳以上人口は約1,380人と推計されています。

長池小学校区の人口推移と高齢化率（65歳以上人口比率）の見通し



②長池小学校区のさまざまなデータ

項目	単位	八尾市	長池小学校区
世帯数	(世帯)	121,528	4,709
人口	(人)	268,983	10,498
面積	(km ²)	41.72	0.942
人口密度	(人/km ²)	6,447	11,144
65歳以上人口	(人)	72,295	2,822
65歳以上人口比率	(%)	26.9	26.9
14歳以下人口	(人)	34,723	1,428
14歳以下人口比率	(%)	12.9	13.6

(平成27年(2015年)9月末時点)

(3) 長池小学校区のまちづくりの方向性

① 誰もが安全で安心して住み続けられるまち

長池小学校区では、狭い生活道路が多く、災害発生時には避難や救助などを行う上で課題があります。また、近年、街頭犯罪や交通事故、詐欺などの被害も発生しています。今後も地域と行政、関係機関が連携し、防犯防災対策や交通安全啓発、消費者問題対策等に取り組み、誰もが安全で安心して住み続けられるまちをめざします。



防災訓練

市の主な取り組み

- 地域における防犯活動の支援や、地域、事業者、関係団体、警察、関係機関との連携・協力による防犯への取り組みを進めます。
(施策1：安全なまちをつくる防犯の取り組み)
- 災害発生時を想定した行動訓練や自主防災組織の活動支援などに取り組みます。
(施策2：安心を高める防災力の強化)
- 警察、地域などの関係団体と連携し、交通事故防止に向けた各種啓発活動や交通安全教育などに取り組みます。
(施策5：交通事故をなくすための安全意識の高揚)
- 消費者トラブルを未然に回避するために、消費生活問題に関する講座などを開催し、消費者教育を推進します。
(施策7：消費者の保護と自立を支援する取り組み)

② 子どもたちが健やかに育ち、子育てのしやすいまち

長池小学校区では、通学路の見守りなど子どもたちの安全確保の取り組みをはじめ、0歳から就園前までの子どもと保護者を対象として月1回開催される子うさぎ教室での子育て支援活動など地域ぐるみで子どもたちを育む活動を行っています。しかし、近年児童虐待やいじめ問題など子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。今後とも、家庭・学校・地域が連携しながら子どもたちが健やかに育つまちをめざします。



子うさぎ教室

市の主な取り組み

- 子どもたちの安全確保の取り組みや、地域での青少年健全育成の取り組みを進めます。
(施策22：次代を担う青少年の健全育成)
- 通学路を中心とした生活道路について安全対策と適切な維持管理に努めます。
(施策40：生活道路の整備と維持)

③ 緑ヶ丘コミュニティセンターを中心とした生涯学習活動や地域活動が活発なまち

長池小学校区では、緑ヶ丘コミュニティセンターにおいて、毎月一人暮らし高齢者を対象にしたふれあい給食サービスや年に一度いきいきサロンを開催するなど校区内の高齢者のふれあい交流事業を展開しています。また、緑ヶ丘コミュニティセンターでは子どもから高齢者まで幅広い年代の方が参加できる事業や生涯学習活動が展開されています。しかし、コミュニティセンターは場所が分かりにくいなどの課題もあります。今後もコミュニティセンターを拠点に生涯学習活動や健康づくり、地域活動が活発なまちをめざします。



グラウンドゴルフ大会

市の主な取り組み

- 地域の健康づくり活動を支援する中で、地域の健康コミュニティの構築と健康文化の醸成に取り組めます。
(施策 10：疾病予防と健康づくりの推進)
- 高齢者が自らの生きがいを見出し、社会参加を図ることができるように、生きがいづくりの支援および情報の提供などにより、地域で活躍する高齢者の活動を支援します。
(施策 14：高齢者の生きがいづくりと高齢者を支えるしくみづくり)
- 身近な地域拠点であるコミュニティセンターにおいて生涯学習の場を提供します。
(施策 28：生涯学習の取り組み)
- 地域のまちづくり活動を支援する体制を充実します。
(施策 54：地域のまちづくり支援・地域拠点の充実)
- 市民活動団体等が地域とつながり、協働のまちづくりの担い手となるよう支援します。
(施策 55：市民の社会貢献活動の促進)

④ 地域福祉の推進と福祉サービスにつながるまち

長池小学校区では、地域住民が主体で住民どうしの交流を目的に毎月ふれあい喫茶や年に一度の大規模なふれあい交流イベントとしてフェスタ長池を開催するなどさまざまな活動が実施され、多くの方々が参加されています。しかし長池小学校区においても少子高齢化が進み、一人暮らし高齢者世帯あるいは認知症や介護を必要とする世帯が増える傾向にあります。今後とも誰もが住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けることができるように、高齢者の相談窓口である地域包括支援センターを中心に相談体制を充実するとともに高齢者を地域で見守るネットワークを広げるなど地域と行政、関係機関が連携し、適切な福祉サービスにつながるまちをめざします。



フェスタ長池

市の主な取り組み

- 地域における団体や住民の自主的な地域福祉活動や見守り・支援体制の充実の支援に取り組めます。
(施策 13：ともに支えあう地域福祉のしくみづくり)
- 地域における見守りネットワークと地域包括支援センターを中心とした相談体制の充実を図るとともに、災害時要配慮者支援体制の構築に取り組めます。
(施策 14：高齢者の生きがいづくりと高齢者を支えるしくみづくり)